

常設展示リニューアル～資料原本がより身近に～

2014.6.6 (レポーター：岡野恵美)

広島県立文書館では、この4月に常設展示をリニューアルオープンしました。この常設展示は、広島県情報プラザ（広島市中区千田町）2階の当館展示室で現在、第1回収蔵文書の紹介展「被爆時の県知事高野源進とその書簡」と同時開催中です。

リニューアルポイントその1

資料原本を見られるようになりました。

これまで常設展示では、資料保護の観点から、長期間の展示に資料が耐えられるよう複製物を使用していましたが、この度から40～50日（約6週間）を目標に入れ替えを行うことで資料原本を展示しています。

当館は、昭和63年（1988）10月に開館して以来、様々なテーマの収蔵文書展を随時開催してきました。この当館における収蔵資料紹介の足跡を活かし、過去の展示の一端を活用することで早いサイクルでの展示替えを実現しました。

リニューアルポイントその2

5つの小テーマに沿って展示します。



それぞれ文字パネルと資料原本を展示し、約6週間おきに原本部分を入れ替えます。

広島県の行政文書と行政資料

江戸・明治の商家文書

江戸時代の村方文書

江戸時代の武家文書

文書館が所蔵する中世文書

展示の一部を
ご紹介！！

こんな見どころが！

当館常設展では、資料の保存・公開についても認識を深めていただけるよう、実際に資料整理に使用している中性紙の封筒も展示しています。

また、県庁での行政事務遂行過程で作成された文書が、現場で作成されてから文書館で公開されるまでの流れについて、パネルで解説しています。

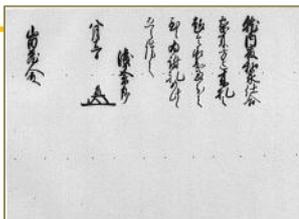


展示の様子：中性紙の封筒

こんなところに内匠頭(たくみのかみ)？！

常設展示リニューアルの皮切りには、三次藩家老山田蔵人へ宛てた^{ながのり}浅野長矩(赤穂浪士の仇討で有名な^{たくみのかみ}内匠頭)の書状を展示しました。

花押が見られることも！

なぜ広島に
たくみのかみ？！

【広島歴史豆知識】

広島藩では、寛永9年(1632)、支藩の三次藩(5万石)が成立しました。赤穂事件で切腹した赤穂(兵庫県赤穂市)藩主浅野長矩に嫁いだ^{ながはる}瑤泉院(阿久里)は、初代藩主長治の娘です。

※展示内容は入れ替わります。

資料原本を見ると、書かれた内容以外にも具体的な状況がよく分かります。紙の使い方から先人が物を大切にしていた様子に感銘を受けたり、工夫を凝らしてどうにか記録しようとした様子がうかがい知れたり、はたまた劣化の状況がありありと感じられて保存への緊張感が伝わってきたり……皆さんも文書からのメッセージを感じてみませんか？ご来館、お待ちしております。